

新規導入装置の紹介 ～炭素硫黄分析装置、超低温恒温器～

京都府中小企業技術センターでは、高度な試験・研究用機器を設置して依頼試験や機器貸付を行い、中小企業が持つ「強み」を活かして力強く活動できるよう、技術開発等に関する支援を行っています。

この度、炭素硫黄分析装置、超低温恒温器を更新いたしました。今後、皆様の製品開発や品質管理等にご利用下さい。

炭素硫黄分析装置

この装置は、金属、鉱石、セラミックス、その他の無機物中の炭素硫黄の含有量を広範囲に測定します。

- 【型 式】** CS-844 (米国LECO社製)
- 【測定方式】** 高周波誘導加熱－酸素気流中燃焼－非拡散赤外吸収法
- 【測定範囲】** 炭素:0.6ppm～6.0%
硫黄:0.6ppm～6.0%(いずれも試料量は1g程度)
- 【活用事例】** 不明試料の鋼種特定、鉄鋼等の所定規格の適合確認、電池材料の不純物測定などにご利用いただけます。
- 【備 考】** 当センター所有の蛍光X線分析装置などと併せてご利用いただくことで、ほとんどの鉄鋼材料の成分測定を行うことが可能です。



超低温恒温器

この装置は、超低温(−85℃～)に製品や部品等を曝すことにより、製品や部品の信頼性評価のための環境を提供できます。広温度範囲(−85℃～180℃)での温度サイクル試験も実施できます。

- 【型 式】** MC-811P (エスペック株式会社製)
- 【温度範囲】** −85℃～+180℃
- 【試験室寸法】** 400mm×400mm×400mm
- 【性 能】** 温度上昇時間: +20℃～+180℃まで約30分
温度下降時間: +20℃～−80℃まで約70分
- 【活用事例】** 航空機・宇宙産業や極寒冷地で使用される製品・部品などを、超低温(−85℃～)に曝すことにより不具合が生じないか確認するためにご利用いただけます。
−85℃～180℃までの広温度範囲で温度サイクル試験も行えます。
- 【備 考】** ケーブル孔(直径50mm)を有し、外部から通電・制御も可能です。
- 【備 考】** 当センターでは、他にも温湿度サイクル試験装置、冷熱衝撃試験機などの温度・湿度の試験装置を備え、様々な試験・評価のご要望にお答えしております。

